

2017 平和登校日

それでも君は銃をとるか

2017. 8. 4.

今日の平和登校日は、2部になっています。1部は3年生の皆さんが修学旅行で学んできた平和学習（山口県回天記念館）の報告です。

そして、2部は戦争体験者の方の体験を聞き取ります。今年は瀧本邦慶（たきもとくによし）さんです。

瀧本邦慶（たきもとくによし）さんは、今年95歳。2008年から自分の戦争の体験を多くの人に語ってこられています。



瀧本さんは1922年生まれ。1939年（昭和14年）に17歳で海軍に志願（自分の意志で）して入隊しました。そのとき「お国のために死ぬ。男子名誉の上なし」と信じていたそうです。

瀧本さんは、訓練を経て、空母「飛龍（ひりゅう）」に戦闘機の整備兵として乗船しました。それから、真珠湾の攻撃に参加し、飛龍はミッドウェー会戦で撃沈されます。負傷したけれど一命を取り留めた瀧本さんは日本に戻りますが、その後すぐに、南太平洋のトラック島に移動になります。そこではアメリカ軍の爆撃と猛烈な飢餓にさらされながらも、1945年8月15日まで戦い、1946年1月に日本に復員（戻ってくる）されました。

ものすごく多くの方が戦死し、また餓死した悲惨な戦場を必死に生き延びて帰ってこられた瀧本さんは、戦後も懸命に生きてこられました。

瀧本さんは、なぜ戦争体験を語られるのでしょうか。講演の中で、「お国のために死ぬ」と信じて軍隊に入ったら、そこは上下関係が理不尽にきびしく、若い兵隊に対するいじめや暴力もすさまじかった。そして実際の戦争で死ぬのは、若い兵隊がほとんど。命令する人は安全なところにいる。食料がなくて餓死する兵士がたくさんいるのに上官は米を食べている。戦場で戦う兵士の命なんて上官や国は全く大事にしていなくて強く感じたからだと語られています。

先生が打ち合わせで聴いてきた言葉を紹介します。

「私は若者の命を守りたいと思っています。これからの社会を背負っていく人たちに命を大事にしてほしい。国にだまされるな、と言いたい。戦争の本当の目的は金儲けです。若者が戦争で捨てる命と引き替えで大もうけするヤツがおるんです。国のきれいなことばにだまされたらあかん。私は経験からそのことをよく知っています。それを、命の限り今の若者に伝えたいのです」



【入隊当時の瀧本さん】

追記：瀧本さんは、この夏も講演を続けられていましたが、一週間前に、急に体調をくずされ今日は、来れなくなりました。とても残念ですが、これまでの講演を記録した映像で、瀧本さんの言葉を伝えたいと思います。瀧本さんのメッセージを受け取ってください。

2017 平和登校日

2017. 8. 4.

それでも君は銃をとるか

- 1 3年生の修学旅行報告を聞いて感じたことがあれば書いてください。

- 2 瀧本邦慶さんの講演 DVD を見て感じたことがあれば書いてください。

年 組 名前 ()